

第38回 うつのみやこども賞だより

令和3年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『妖怪コンビニで、バイトはじめました。』

令丈 ヒロ子／著（あすなろ書房）



令和4年3月6日

読めば
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 「妖怪や〈あの世〉向けのコンビニ」というのは面白いなと思いました。
- いつもとちがう世界が体感できて楽しかった。
- 私は怖い話が少し苦手なので、イズミが妖怪コンビニで働こうとするのがよりすごいと感じました。
- 主人公が妖怪コンビニを見つけてから、死んでしまったゆうれいや妖怪に会っていて、とても楽しそうだった。
- コアが死にたいと思っていたときは、「死なないでほしい」など思っていたので、生きてくれたときはうれしかった。
- コアさんをいじめていた人たちを成敗するところがすっきりした。

『イカル荘へようこそ』 にしがき ようこ／著（PHP研究所）

- インドネシア留学生のデフィンが明るくて前向きでとても元気が出る。
- 真子さんがイカル荘でナシゴレンを食べた時、複雑な気持ちだったのを、おいしい夕食がいやしてくれたのだと思いました。
- 真子のお父さんお母さんがいつも険悪な雰囲気、そこを説明していたシーンは泣きそうになったけれど、最後は仲良くなって良かった。
- だれかがいなくなって初めてその人の存在の大きさに気づいた真子に共感できた。
- 最後に真子が「帰らない」と言った時は、おどろいたけれど、理由を聞いて安心した。

『りんごの木を植えて』 大谷 美和子／作（ポプラ社）

- おじいちゃんの病気がわかってからの生活が書かれていて新しかったです。そして、絵の個展での話に感動しました。
- いろんな大変なことも、前向きにのりこえるみずほを応援したくなった。
- みずほの親友咲ちゃんが本当に良い子。少し先に祖母を亡くした咲ちゃんが、みずほの気持ちをきちんと察して親身になるのが良かった。
- P80の〈たとえあした、世界が滅亡しようともきょうわたしはりんごの木を植える〉という言葉の意味が冒頭では分からなかったが後にいくにつれて意味が未来への希望だと分かった。

『そらのことばが降ってくる』 高柳 克弘／作（ポプラ社）

- これまで、主人公のソラと同じく俳句についてあまり考えたことがなかったので俳句のイメージがこの本を読んで変わりました。
- いじめられ、保健室登校をしているソラが問題児のハセオといっしょに俳句を始めることになるストーリーがおもしろかった。
- 顔に大きなホクロがあるがあるソラが、今までだれにも顔を見せてなかったのに、みせたのがすごいと思った。
- 俳句でみんながより仲良くなっていくのがおもしろかった。